【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年7月22日(2010.7.22)

【公表番号】特表2007-526693(P2007-526693A)
【公表日】平成19年9月13日(2007.9.13)
【年通号数】公開・登録公報2007-035
【出願番号】特願2007-500752(P2007-500752)
【国際特許分類】
Ｈ０３Ｆ　3/45　(2006.01)
Ｈ０３Ｋ　5/08　(2006.01)
Ｇ０５Ｆ　3/26　(2006.01)
Ｈ０３Ｆ　3/34　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０３Ｆ　3/45　Ｚ
Ｈ０３Ｋ　5/08　Ｅ
Ｇ０５Ｆ　3/26
Ｈ０３Ｆ　3/34　Ａ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成22年6月2日(2010.6.2)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２４】
ダイオード接続のＱ９が存在することによっても、ノード３４が、Ｑ１からＱ３のベース・コレクタ電圧をゼロに等しいように保つような、入力コモンモード電圧よりベース・エミッタ電圧１つ分高いことが保証される。これにより、低ベース・コレクタ破壊電圧を有しがちなスーパーベータのデバイスを保護する。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２５】
上記に述べたように、ＩＮ＋　ＩＮ－のとき、電流源３２および３６の構成から、Ｑ１、Ｑ２およびＱ３が、実質的に等しいコレクタ電流Ｉを有するようにされる。カスコードトランジスタＱ４、Ｑ５およびＱ６のベースが、ノード３４ですべて互いに接続されるので、Ｑ１からＱ３のコレクタは、等しい電圧、すなわちノード３４よりベース・エミッタジャンクション電圧１つ分低くなる。Ｑ１からＱ３のエミッタが、共通エミッタノード３０で互いに接続される。その結果、Ｑ１、Ｑ２およびＱ３のコレクタ・エミッタ電圧は、実質的に等しくなる。上記に述べたように、Ｑ１からＱ３のコレクタ電流およびコレクタ・エミッタ電圧を実質的に等しくすると、アーリー効果から生じることがあるはずの不正確さが減少され、Ｑ３のベース電流が、Ｑ１およびＱ２のそれらに、高度な正確さで等しくなることが保証される。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３１

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３１】
図４に示すように構成されたとき、電圧ループが、Ｑ８およびＱ９のベース・エミッタジャンクション、Ｒ３、Ｒ４、ならびにＱ１３およびＱ１２のベース・エミッタジャンクションを介して、Ｑ１０のコレクタとＱ１１のコレクタの間に、形成される。このループは、Ｑ１０およびＱ１１のコレクタ電圧をほぼ等しくし、それらが、変化する入力コモンモード電圧と等しく変化することを可能にする。たとえば、入力コモンモード電圧が減少した場合、電圧ループによって、Ｑ１０とＱ１１の両端間のコレクタ・エミッタ電圧が同量だけ減少し、それらのコレクタ電流も同様に同じ量だけ減少することが保証される。したがって、入力コモンモード電圧の変化に対して、それらのコレクタ電流間の３：１の比が一定に保たれ、それによって、入力コモンモード電圧が変化したとき、アーリー効果から生じる相殺電流エラーが、導入されないように防止される。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３２】
トランジスタＱ１２は、Ｑ１１のコレクタ電圧が、Ｑ１０のコレクタ電圧にほぼ等しくなることを可能にする。これは、次の関係、$V_{be(Q8)}+V_{be(Q9)}+I*R3=I*R4+V_{be(Q13)}+V_{be(Q12)}$を実現することによって、達成される。Ｑ１２が省略された場合、Ｑ１１のコレクタ電圧は、Ｑ１０のそれとは異なることになり、それは、Ｑ１からＱ３のコレクタ電流の整合エラーとして、現れることになるはずである。Ｑ１２を含めると、トリム前に、入力バイアス電流を相殺する際の系統的誤差が減少する。